

## 2021 年度卒業生成長実感調査について（報告）

2021 年度の卒業生について、卒業時に学士課程全体を通じた成長実感を測定するため、アンケート調査を実施しましたので報告いたします。

### 1. 調査概要

#### (1) 趣旨

中央教育審議会答申の中で示された3つの方針について、その方針に基づく人材育成に関して、卒業時の学修成果の測定を卒業生の自己評価にて行う。

調査結果は、学修成果の傾向を把握するとともに、学修支援体制整備に資することを目的とする。

#### (2) 調査概要

【調査実施日】 ※アンケートフォーム配信後、下記の日程で案内。

- ① 2022 年 3 月 4 日 卒業式終了後
- ② 2022 年 3 月 17 日 追加卒業式終了後

#### 【対象者】

歯学部 卒業生 109 名 （有効回答者数 102 名 回答率 93.6%）

#### 【調査方式】

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として WEB アンケート（Google forms）にて記名式・5 件法で自己評価を実施。

（一部不具合等で WEB 実施出来なかった学生へは質問内容を記載した用紙を配布。）

#### (3) 調査項目

「卒業認定・学位授与の方針」（以下「ディプロマ・ポリシー」という。）に関連した自己評価項目 10 項目、「カリキュラムに関する満足度」を尋ねる項目 8 項目及び学習習慣に関する項目を 6 項目尋ねるアンケートを実施。

≪自己評価項目≫ 10 項目

#### ●基礎医学及び歯科医学の知識

基礎歯学、臨床歯学、社会歯学、各分野における知識を体系的に正しく理解し、原理から応用まで説明できる。

#### ●情報収集・分析力

ひとつの事柄について、自ら情報を収集し、複数の視点から現状を俯瞰して分析し、目的や課題を明らかにすることができる。

●課題解決力

問題の本質をとらえ、課題の解決に向けた工程を明らかにし、現実的な課題解決策を提示することができる。

●高い倫理観・コミュニケーション力

(協力・協働)自分の置かれている状況、役割ややるべきことを認識し、自身の役割を果たしながら他者と協力・協働することができる。

(聞く力)自他分け隔てなく思いやる心を持ち、相手の意見を丁寧に聞くことができる。

(伝える力)他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。

●国際人としての素養・多文化共生力

異なる文化や価値観の人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、表現を工夫しながら、意見を述べたり、意見調整ができる。

●歯科医療を適切かつ確実にを行う診察・臨床技能

歯科医師としての基本的な診察技能及び態度を修得し、患者目線での治療を行うための技能を有している。

●歯科医師としての基礎的素養

プロフェッショナリズムや倫理観、医療安全、チーム医療、社会保障、地域包括ケアシステム、訪問歯科医療、災害医療など、歯科医師の使命について理解し、他者に説明できる。

●学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力

歯科に対する社会的ニーズが日々変化していることを認識し、新たな役割に的確に対応できる資質・能力を学び続ける意欲と意志がある。

【評価基準】

- 5：100%基準を満たしていると思う。
- 4：80%は基準を満たしていると思う。
- 3：50%は基準を満たしていると思う。
- 2：ほとんど基準を満たしていないと思う。
- 1：そのような力は全く身につけなかったと思う。

《カリキュラムに関する満足度》 8項目

- 基礎医学及び歯科医学の知識
- 情報収集・分析力
- 課題解決力
- 高い倫理観コミュニケーション力
- 国際人としての素養多文化共生力
- 歯科医療を適切かつ確実にを行う診察・臨床技能
- 歯科医師としての基礎的素養
- 学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力

## 【評価基準】

- 5：十分身に付けられるカリキュラムであった（満足度 100%）  
 4：ある程度身に付けられるカリキュラムであった（満足度 80%）  
 3：どちらとも言えない（満足度 50%）  
 2：あまり十分なカリキュラムではなかった（満足度 30%）  
 1：対応できるカリキュラムではなかった

## 《学習習慣に関する項目》

各項目について、学士課程全般を振り返ってあなたの考え方に最も近いものを選択してください。

A	A によくあてはまる	当 ては ま る  ど ち ら か と い え ば A に	当 て は ま る  ど ち ら か と い え ば B に	B によくあてはまる	B
学習は自宅や自習室等で、ひとりで学習することが多い	1	2	3	4	友人や先生とグループ学習を活用して学習することが多い
授業時間以外で毎日 30 分以上勉強した（低学年時から）	1	2	3	4	主要試験の前に学習計画を立てて集中して勉強した
講義で配布されるプリントや資料、教科書を中心に学習した	1	2	3	4	参考書や問題集、資料集などを中心に学習した
苦手・得意など分野ごとに学習計画を立てて勉強した	1	2	3	4	全ての分野をできるだけ均等に学習するようにした
周囲の意見を参考に新たな勉強法を取り入れた	1	2	3	4	自分にあうと思う勉強法で一貫して勉強した
学習や情報収集にインターネットを活用した	1	2	3	4	予備校や先輩、先生などからの助言・意見を活用した

## 2. 結果

## (1) 自己評価

- 回答者全体の平均点は 37.5 点 (50 点満点) となった。
- 全体としては、国家試験合格者の自己評価が、不合格者に比べ高い傾向にある。
- 合格者と不合格者で最も差が開いたのは「情報収集・分析力」でその差は 0.48 点となった。

自己評価	全体	合格者	不合格者
基礎医学及び 歯科医学の知識	3.75	3.84	<b>3.56</b>
情報収集・分析力	3.68	3.81	<b>3.33</b>
課題解決力	3.70	3.84	<b>3.56</b>
倫理観・コミュニケーション力 (協力・協働)	3.75	3.82	<b>3.56</b>
倫理観・コミュニケーション力 (聞く)	3.87	3.88	<b>3.78</b>
倫理観・コミュニケーション力 (伝える)	3.87	<b>3.86</b>	4.00
国際人としての素養 多文化共生力	3.60	3.68	<b>3.44</b>
診察・臨床技能	3.77	3.82	<b>3.67</b>
歯科医師としての 基礎的素養	3.76	3.91	<b>3.56</b>
学び続ける気持ちと姿勢 自己研鑽力	3.78	3.91	<b>3.67</b>

## (2) カリキュラムに関する満足度

- カリキュラム満足度は全体で、76.0点（100点満点）であった。
- 国家試験合格者の満足度が高く、78.6点（不合格者 75.6点）であった。
- 全体として満足度が高かったのは「歯科医師としての基礎的素養」「基礎医学及び歯科医学の知識」で、低いのは「国際人としての素養・多文化共生力」となった。

カリキュラム評価	全体	合格者	不合格者
基礎医学及び歯科医学の知識	3.94	4.14	<b>3.67</b>
情報収集・分析力	3.77	3.86	<b>3.78</b>
課題解決力	3.77	3.91	<b>3.89</b>
高い倫理観コミュニケーション力	3.78	3.89	<b>3.67</b>
国際人としての素養多文化共生力	3.40	3.58	<b>3.33</b>
歯科医療を適切かつ確実にを行う診察・臨床技能	3.90	<b>3.95</b>	4.00
歯科医師としての基礎的素養	3.95	4.09	<b>4.00</b>
学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力	3.85	4.04	<b>3.89</b>
(100点換算)	76.0	78.6	75.6

## (3) 学習習慣・学習スタイル別の国試合否状況

学習指導に生かすため、学習習慣のタイプ別に国家試験の合否の状況をみた。

### 学習形態

A:学習は自宅や自習室等で、ひとりで学習することが多い B:友人や先生とグループ学習を活用して学習することが多い

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	28%	42%	25%	4%
本卒 (66)	29%	41%	27%	3%
合格 (57)	30%	37%	30%	4%
不合格 (9)	22%	67%	11%	0%
追卒 (36)	28%	39%	25%	8%

- 全体として【グループで学習】は3割程度であった。
- 国試合格者は不合格者に比べ【グループ学習】を行っている割合が高い。  
→成績上位者・国試合格者の勉強方法の共有等が必要。

### 学習計画

A:授業時間以外で毎日30分以上勉強した(低学年時から) B:主要試験の前に学習計画を立てて集中して勉強した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	25%	19%	31%	25%
本卒 (66)	23%	17%	32%	29%
合格 (57)	21%	18%	30%	32%
不合格 (9)	33%	11%	44%	11%
追卒 (36)	28%	22%	31%	19%

- 国試合格者の62%の学生が【主要試験の前に学修計画を立てて集中して勉強した】と回答したことから、日ごろより学習計画を立て、試験に的を絞った勉強スタイルが確立できていたと考えられる。

## 学習教材

A：講義で配布されるプリントや資料、教科書を中心に学習した

B：参考書や問題集、資料集などを中心に学習した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	34%	44%	19%	3%
本卒 (66)	39%	42%	18%	0%
合格 (57)	40%	40%	19%	0%
不合格 (9)	33%	56%	11%	0%
追卒 (36)	25%	47%	19%	8%

- 全体として大学の講義で使用了資料を中心に学習活用している学生が7割強。  
→どの属性でもこの割合には大きな差は見られず、国試・CBT試験を見据えた講義資料・配布資料の充実が求められる。

## 学習分野

A：苦手・得意など分野ごとに学習計画を立てて勉強した

B：全ての分野をできるだけ均等に学習するようにした

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	25%	31%	35%	8%
本卒 (66)	24%	26%	44%	6%
合格 (57)	28%	25%	40%	7%
不合格 (9)	0%	33%	67%	0%
追卒 (36)	28%	42%	19%	11%

- 国試不合格の学生の7割弱は【全ての分野をできるだけ均等に】学習を行っている割合が高い。  
→苦手分野の洗い出し、対策が必要。

## 学習法

A：周囲の意見を参考に新たな勉強法を取り入れた

B：自分にあうと思う勉強法で一貫して勉強した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	22%	43%	25%	10%
本卒 (66)	18%	41%	26%	12%
合格 (57)	23%	39%	25%	14%
不合格 (9)	11%	56%	33%	0%
追卒 (36)	22%	47%	25%	6%

- 追卒生・国試不合格の学生の約7割は勉強方法について様々な勉強法を試している。早い段階で自分に合った勉強法を確立することが必要。

## 情報収集・学習改善

A：学習や情報収集にインターネットを活用した

B：予備校や先輩、先生などからの助言・意見を活用した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (102)	24%	32%	31%	13%
本卒 (66)	23%	27%	33%	17%
合格 (57)	25%	25%	35%	16%
不合格 (9)	11%	44%	22%	22%
追卒 (36)	25%	42%	28%	33%

- 国試不合格者・追卒者は【インターネットを活用】した情報収集が目立った。  
 →身近な人からの助言・意見を受けられる環境が必要。  
 →SHISHIN-WebやGoogle Classroom等のツールを充実させる。  
 (多学年の授業を見られるようにするなど)